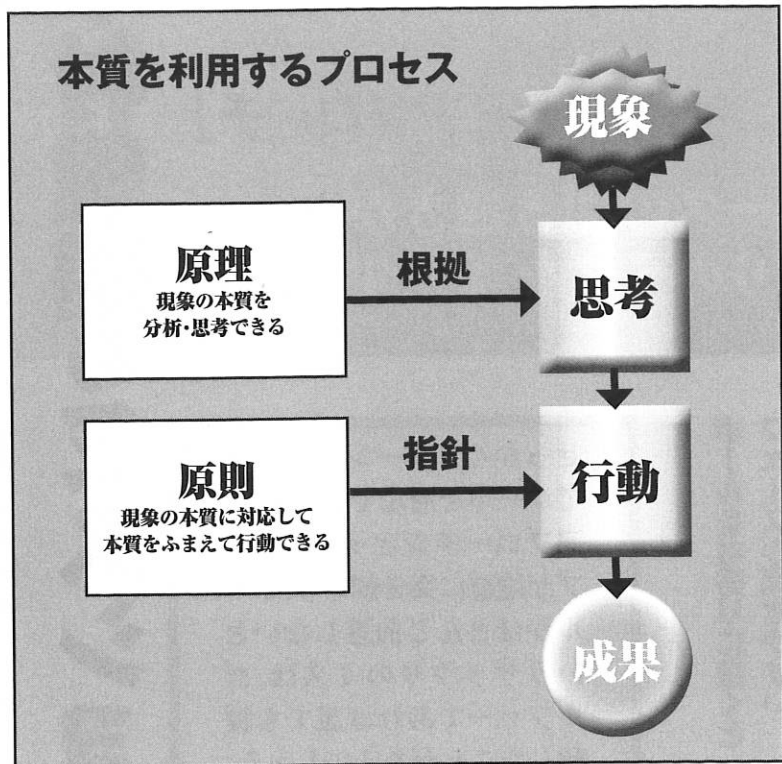




「知的なムダ」を排除する

## 成功法則の「見える化」と「できる化」



目して、原因を原理で思考し原則に従って行動する考動(思考・行動)のスタイルである。本質考動のメリットには以下のようなものがある。

- 現象は多種多様であっても、それらの中に含まれる本質の種類は少なく、効果的な情報や知識の整理手法として活用できる。
- 現象に関係なくズバリ本質に

言及するため、理解が早く正確である。

- また記憶する場合にも内容が端的で容易である。
- 本質的に重要な項目を理解していれば現象に対応する最適な対策が取れる。また初めての事項でも現象の思考(分析)や対策が適切に行える。
- 自分の業務に一見無関係に見える事例や、他業態の事例でも、その本質を把握して応用すれば、自社の業務のレベルアップに効果的に活用できる。これを「異業態ベンチマーキング」という技法になる。

### ■本質考動技法とそのメリット

弊社は本質考動スタイルを技法として広く活用できるようにしている。「本質考動技法」とは、業務遂行時に、現象にとらわれ

ずその背後にある本質に着目して原因を原理で思考し、原則に従って行動する技法である。

(図参照)

①「原理」：個人活動や企業経営の現象を本質で思考することを可能にする「根拠」

②「原則」：現象を自分の意図に合わせて本質で行動することを可能にする「指針」

本質考動技法のメリットには以下のようなものがある。

- 企業共通の標準考動法としてあらゆる場面で活用できる。
- 経営者が社員をリードするにあたって説得力が増す。
- 管理職の指導力・育成力が向上し部下が成長する。
- 自己流でやっていた中堅の戦力の増強に役立つ。
- 仕事の本質を活用することにより、新人が早期に一人前になる。



坂本善博 資産工学研究所社長

(さかもと・よしひろ) 1949年鳥取県生まれ。72年東京大学経済学部卒業後、富士通入社。システムエンジニアとしてIT適用指導、商品企画部長として各種サービスの商品化担当。94年昭文社専務として地図の電子化商品開発担当。98年資産工学研究所を設立し、社長に就任。ナレッジファシリテーションによる成功法則の「見える化」をキーテクノロジーに、企業の発展・持続性に関する総合コンサルティングを展開している。

「知的なムダ」を排除する

## 成功法則の「見える化」と「できる化」

第9回 (基盤技術編1)「本質」を理解し活用しないムダ

今回から思考・行動のレベルを向上させる各種基盤技法を紹介していく。

私たちが企業活動において思考・行動等するのはすべて「現象」の世界であり、同一現象は2つとして存在しない。

しかしながら根本的な視点で見ると、似たような原因から問題が発生している、似たような方法で解決できる、といった現象がある。

このような現象の背後や内面には、その現象を思考できる根拠や対応すべき指針があるのであり、これらを現象に合わせて的確に対応する基盤知識を「本質」と位置付ける。

### ■現象と本質の関係

- ①異なる現象の本質が同じ場

合

車のブレーキも情報システムのセキュリティも一見ネガティブな役目に見えるが、本質をとらえると全く別なものに変貌する。

(現象)

- ・車のブレーキには、スピードを緩めたり止めたりする機能がある。
- ・情報システムのセキュリティには、機密を守る機能がある。

(本質)

上記例には「抑制機能によりシステム全体を安全に拡大させる」という同一の本質があるのである。

- ・車のブレーキは、スピードを抑制することにより、「安全に速く走る」ことを可能にする。
- ・情報システムのセキュリティは、侵害を抑制することにより、「情報システムを安心して拡大する」ことを可能にする。

「本質考動」とは、業務を遂行するに当たって、現象にとらわれず、その背後にある本質に着

大する「こと」を可能にする。

②現象の本質に働きかけて現象を変える場合

事前の現象を本質まで追求することにより、事後の対応レベルが向上する。

- ・私の部下のA君はふてくされていて真面目に仕事しないのでいつもハツパをかけていた。
- ・ある日隣の課長から「実はあなたが過去に彼にやる気をなくさせる言動をとっていたのだ」との助言を聞いた。

- ・変えるべきはA君ではなく自分である」と気づき、自分の言動を改めたら、A君は活き活きと頑張るようになった。

### ■本質考動とそのメリット

「本質考動」とは、業務を遂行するに当たって、現象にとらわれず、その背後にある本質に着